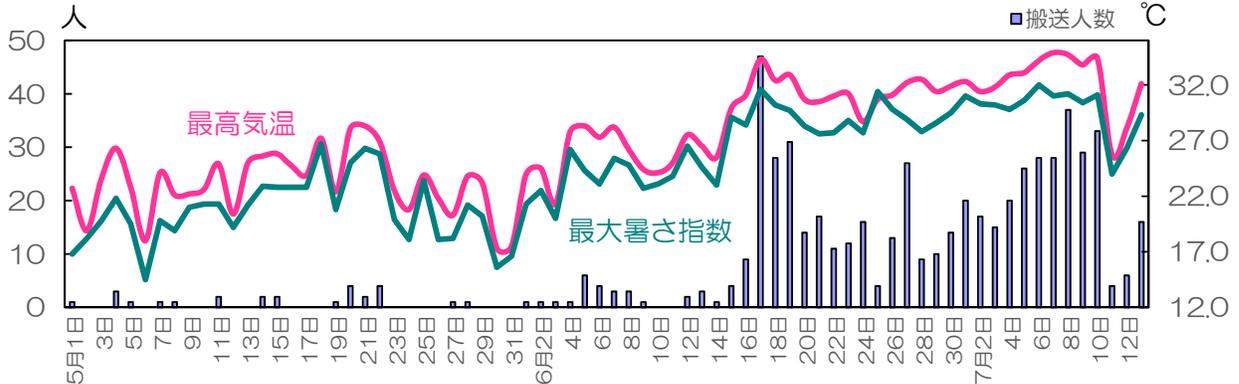


熱中症情報

<搬送数>

令和7年5月1日～7月13日までの搬送数（消防局データを使用）は、計598人（5月26人・6月293人・7月279人）でした。6月17日は、搬送数が47人と、期間内で最多を記録しました。6月25日以降、16日間、真夏日が続き、搬送数も増加傾向でしたが、7月11・12日は夏日で搬送数が減少しました。



熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。

気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

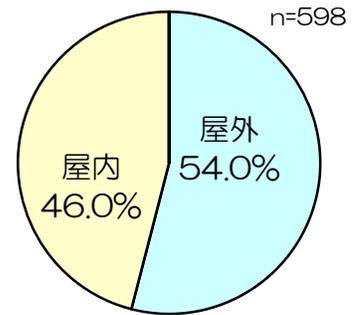
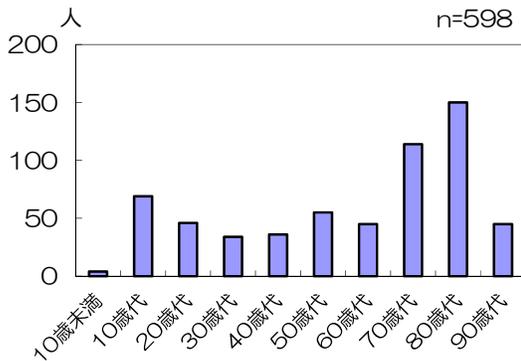
暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別>

80歳代が150人（25.1%）で最も多く、次が70歳代で114人（19.1%）でした。

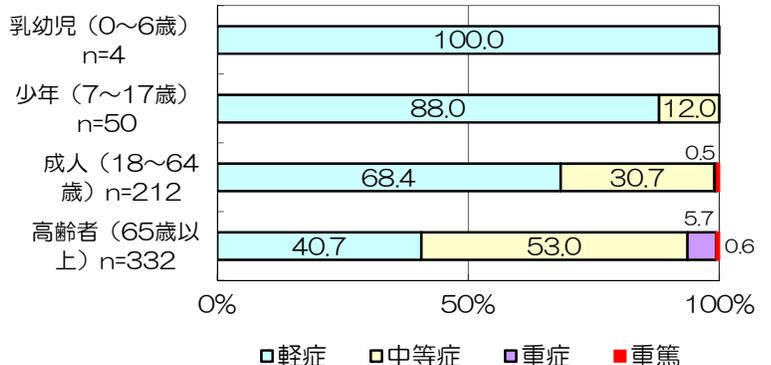
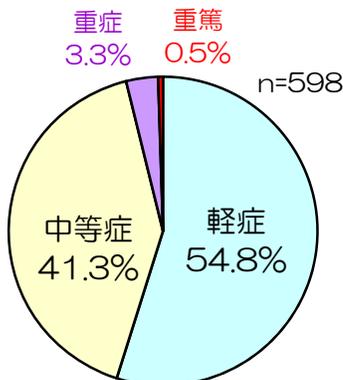
<発生場所>

屋外54.0%、屋内46.0%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度*>

軽症54.8%、中等症41.3%、重症3.3%、重篤0.5%でした。高齢者で中等症以上の割合が59.3%と高い傾向が見られました。



*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。